

# 文芸ひろば

## 詠歌の紹介

千代田俳句同好会

栗の木の剪定終えて遠筑波  
方程式かるく解くなり春炬燵  
屋をゆする春一番の朝かな  
風邪の子のとうふりつかり兄の膝  
億年の大岩に雪瀧の音

熊沢鉄雄  
小松崎緑  
神原清志  
桜井愛子  
桜井筑娃

紫陽花俳句会

初午や供へし煮しめ香を添へて  
思い出の味なつかしむ芥なすな  
春時雨静かな夜の窓たたたく  
浦々の水面塗りかえ春時雨  
湖風に委ね流るる浮寰鳥

飯田功  
久保慶悦子  
車田きみ  
田能幸雄  
福田宏通

出島短歌会

風止まめ海辺の街に暮れはやまた日がにじむゆきすりの声  
湯上がりの湯気の残りし孫の肌ういしきはわれに羨しき  
ひまびさに姉と待ち合ふ上野のもり公孫樹の実をふみ語りつつゆく  
太陽も病むと思へり薄き陽に洗濯物の場所きめかねる

岡田恭子  
名倉親子  
浜田留子  
飯島ヒロエ

投稿作品

梅植りて共にゆみし友去りぬ板に白き一輪の菊  
教育勅語訳も判らず丸暗記小一の夏は終戦の夏  
飛ばされし帽子まろびつ拾う吾様子の可笑しき春あらし過ぐ  
わが娘の映るアレヒに涙する 全国短歌大会持選  
春めくや客待つ笑顔薄化粧  
朝刊は凍るポストでよくぞ待つ

石塚清  
菅谷味子  
沾野はつ子  
高橋フミ  
扶美世  
やまぐちさむ

▶投稿作品(俳句・短歌・川柳)を募集しています。4月4日(日)までに情報広報課(〒300-0192 大和田562番地)へお願いします。  
なお、応募多数な場合には掲載されない場合がありますのでご了承ください。

# ジオパーク構想豆知識

市民学芸員が語る

シリーズ②

## ジオと水産業

霞ヶ浦が今の形になるまでには、いくつもの画期がありました。①約12万年前は、関東地方一帯は「古東京湾」と呼ばれる海でした。②約10万年前は、海岸線の変化がありました。古鬼怒川などが土砂を運び陸化が進みます。③約6万年前から約2万年前は、寒冷化が進み、霞ヶ浦周辺は陸地化し、そこに火山灰が積もり関東ローム層ができました。④約6千年前の縄文時代になると、海水面が上がり(縄文海進)、谷に海水が浸入し浸食が進み大きな入江ができました。⑤約1千年前(平安時代)には、霞ヶ浦の原型ができました。⑥江戸時代に入り、東京湾に流れ込んでいる利根川を現在の河道に移動させたことで、利根川が運ぶ土砂などが下流にたくさん堆積して浅くなり、場所によっては州が出来、海の入江だった霞ヶ浦は狭くなると共に、海と切り離されていきました。このような経緯でできた霞ヶ浦では、縄文時代に、塩が作られ、貝塚からはさまざまな釣針が出土するなど豊富な魚介類を利用した日本の漁業・魚食文化の原点が形成されていく地域でもあったとされます。  
江戸時代に霞ヶ浦の一部が、水戸藩や



幕府の御留川となり、霞ヶ浦で獲れた魚は將軍家や大名にも供されました。明治初期には、霞ヶ浦で佃煮製造が始まり、霞ヶ浦の淡水魚に注目が集まります。また明治13年には、折本良平による帆引き船が発明され、大徳網漁の網元に頼らない、個人経営の漁業が確立していきました。50年前、あるいは30年前の霞ヶ浦と現在の霞ヶ浦を比べて見れば、水質も魚種組成も変わり、漁獲量も大きく変化しました。しかし霞ヶ浦では、現在も漁師が、ワカサギ・シラウオ・エビなどを獲り、日本の淡水魚漁獲高を支える存在となっています。このように、いまだに大きな生産力を保ち続けている霞ヶ浦は、健在です。「霞ヶ浦八景ならぬ霞ヶ浦八珍」(霞ヶ浦のおいしい魚8種)なる物を開発し、「湖山の宝」の名産品ともなわがふるさとの霞ヶ浦の育む事象のブランド化を推進し、地域活性化に繋げていき、観光ネットワークの一員になるよう市民学芸員の会としても努力していかたいと思います。  
筑波山地域ジオパーク推進協議会では、4月に日本ジオパークネットワークに申請する予定です。(深井 征二郎)  
◎郷土資料館  
☎029(896)0017

# 第15回霞ヶ浦帆引き船フォトコンテスト 帆引き船の勇壮な姿と 霞ヶ浦の風景



**霞** ケ浦帆引き船フォトコンテストは霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会の主催で行われており、今回で15回目の開催になります。市内はもとより県内、県外から霞ヶ浦に浮かぶ帆引き船の勇壮な姿や霞ヶ浦を被写体とした作品391点の応募があり、34点が入賞しました。

**最** 優秀賞には、「帆引き船の部」で鈴木健司さん(石岡市)の作品『勇姿』、「霞ヶ浦の風景の部」で石田政光さん(千葉県印旛郡酒々井町)の作品『帆引き漁に勤しむ』が選ばれました。

## ◎受賞の声

応募して11年目での念願の最優秀賞。天候、風に恵まれた12月初めに写した一枚で、応募用に伸ばした写真に感激しました。今まで写すことのできなかつた光と影で表現できた満帆の帆引き船に、満足した一枚です。

## ◎市内の入賞者

福田弘(優秀賞)、圓城寺哲夫(ラクスマリナー賞)、齋藤一郎(霞ヶ浦北浦水産加工業協同組合長賞)、田井俊夫(かすみがうら市商工会長賞)、藤井美代志(霞ヶ浦漁業協同組合長賞)、加瀬雅俊(入選)

(鈴木健司さん)

※敬称略

## ■審査員講評

2001年から始まった帆引き船フォトコンテストは今年で15年目を経過した。一つの被写体をシャッターチャンスにチャレンジしているコンテストは稀である。  
それだけに年々写真技術や表現力、写真構成は次第に粋を極めて来ている。同時にデジタルカメラやフォトショップの精密機能や表現力の発展は著しい。最先端のカメラを駆使すればそれなりの効果は撮影できる。

その中でコンテストと言う審査になれば紙一重と思っても間違いありません。つまり皆さまの公募作品は非常に質の高い作品群だと思えます。

また、この帆引き船は日本においても非常に重要な歴史的文化財で、保存はもとより後世に継承しなければならぬと思います。次回コンテストに大いにチャレンジしていただいて、全国から集まる帆引き船撮影を行いたいと思います。

【立木寛彦】

15年の節目に素晴らしい作品が多数応募され、審査員としてはうれしい悲鳴をあげながらの審査でした。応募作は15年の時間を経て

レベルアップし、総じて言えば優なしいは秀の作品ばかり、技術的には遜色ないところまできているといえるでしょう。そこで雌雄を分けるのはやはりコンテストのテーマをどう表現しているかということになります。帆引き船あるいは霞ヶ浦の何を伝えるかが、益々問われていくことになると思われます。

【香掛博光】

皆さまの作品を見ると、空と雲(湖面、そして帆の見え方がこれほどまでに変化するのだと実感させられます。季節、天候、撮影時刻で、違った顔を見せるその一瞬を切り取った力作ぞういでした。

特に、帆引き船の部、風景の部ともに、上位入賞作品は、力強さ、優雅さ、旅情、霞ヶ浦と生きる人々の暮らしなどを感じさせるものがあります。こうした写真が、観光資源としての霞ヶ浦と帆引き船の魅力を引き出す立っているものとなることを確信しています。

【神崎公一】

※入賞作品は、市観光協会ホームページでご覧いただけます。



【最優秀賞を受賞した(左)鈴木健司さんと(右)石岡市と(中)田田政光さん千葉県印旛郡酒々井町】